中日病院だより

貝田清隆
婦人科部長

㉗ 子宮頸がん検診（婦人科）

早期発見、検診が大事

婦人科のがんで最も多いのが子宮がんです。内側の子宮内膜から発生する子宮体がんと、子宮の入り口付近で発生する子宮頸がんがあります。

子宮頸がんは入り口付近のため検診で発見しやすく、早期に発見できれば治療がしやすく、治療後の経過も良いがんです。発見が早いと切除が一部で済み、その後の出産も可能です。しかし、進行してしまうと治療が難しく、切除できても出産できなくなるリスクも大きくなります。月経以外の出血など気になる異変を感じた時は早めの受診が大切です。

子宮頸がんの検診などを行う女性専用スペース入り口＝名古屋市中区の中日病院で

二十歳を過ぎたら、できれば毎年、少なくとも二年に一回検診を受けることをお勧めします。子宮頸がんはがん細胞に進行する前の異常な状態「異形成」という段階を経てがんに進みます。きちんと検診を受けると、異形成の状態で発見することができます。当院は本年度から、従来より検査精度が高いとされる液状化検体細胞診（ＬＢＣ法）という手法で診断しています。

国の統計によると、年間の子宮頸がんによる死者は約三千人。検診で子宮頸がんの疑いがある場合でも、精密検査で治療が必要ないと分かる場合もあります。当院の検診は三階レディースコーナーで行っております。

（貝田清隆婦人科部長・談）

中日病院　名古屋市中区丸の内３の12の３。㊐中日病院＝052（961）2491